

寛永諸家譜

支流 藤原氏癸卯五冊之内十七

130

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (130)
函號	76 1







倉林	申澤	久保	久貝
熊沢	申西	申坊	倉橋

寛永諸家系圖傳

藤原氏

卷十七

支流

久貝

正好

弥右衛門尉 生國山城  
 濃州小幡の北

淺草文庫



正勝

市右衛門尉

生國孫儀

弘治二年冬列 淡州 上

東照大権現小治人

之正十五年十二月二日冬列小治人

死之 法名善照

正後

志戸出の尉

因幡守

善遠

之正九年 正後九歳のとき

台地信敷

之利之冬 大坂沙陣乃時信奉

つゝ先陣中 河東乃沙使

是より 地とらけ

寛永二年正月朔日 後之信下

叙 因幡守小治人



正長

忠乃歩の尉 生國同前

慶長十九年

台酒原殿下 端一 だてまへり

正信

惣乃歩の尉 生國同前

之和と

將軍家よりある

正重

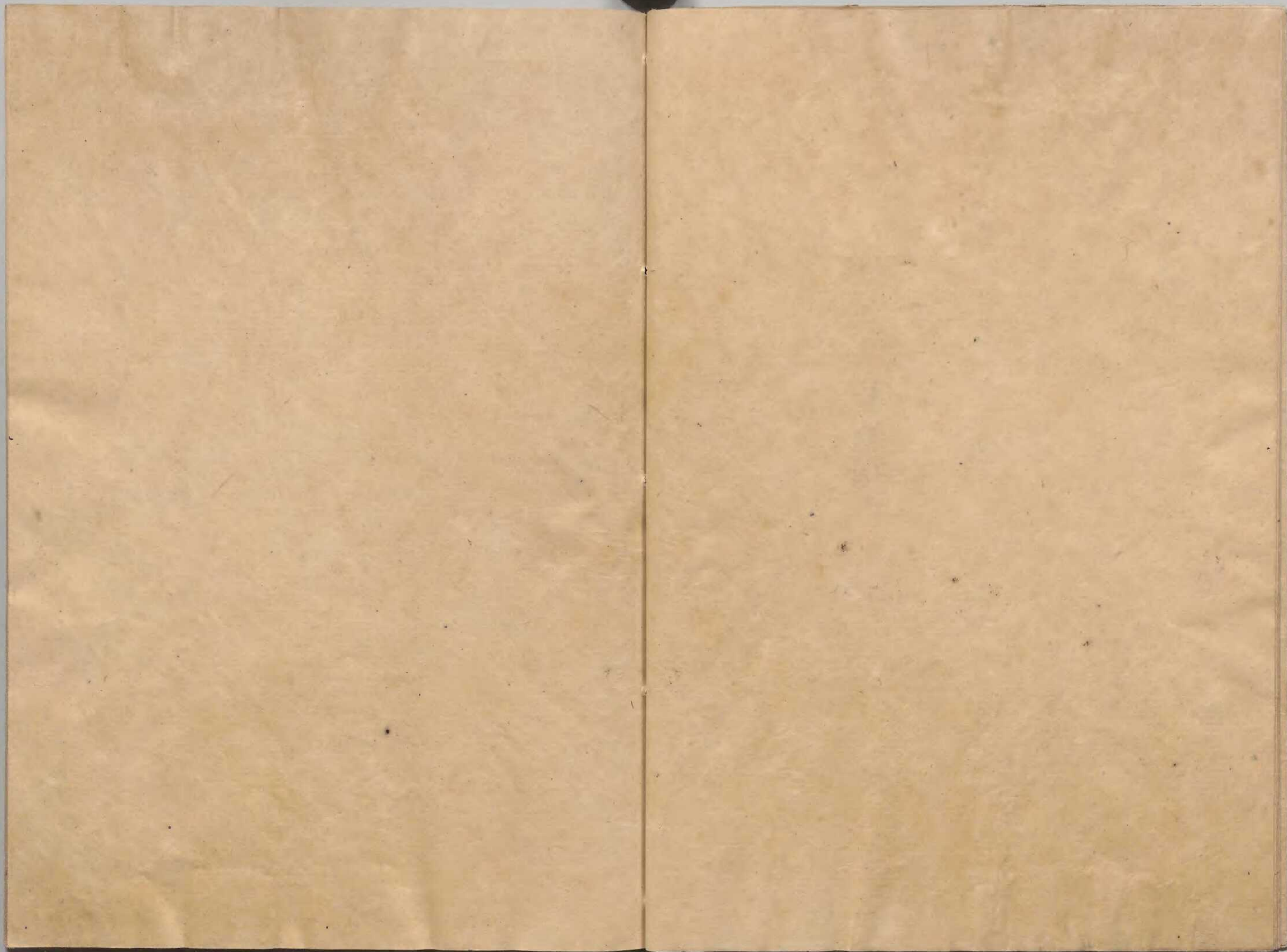
杉母 生國同前

元和八年

將軍家より端一 だてまへり

家乃紋 乃巴







倉橋

光祿大和國倉橋山下石原之領也  
後河内國小移之  
冬川邑移小  
正色也之領也

● 東

永享二年三月八日  
京之部 本國大和

法名寺性



朱

宗之郎 生國同前

朱

宗之郎 生國同前

朱

宗之郎 生國同前

朱

宗之郎 生國同前

明應年中 親忠主小

弘治元年 正月廿日 姓名連知

朱

宗之郎 生國同前

清康長 廣忠以



東照大権現よりつとへてつとへて  
三別一換増起りて忠節とけり  
と一換増起りて忠節とけり  
針海野寺木の法別をゆいし  
元龜元年七月十日を別漢村  
城常陸奉行をつとへて此時死す  
法名道西

政勝

内近助 中園因前

父宗之助 死去りてき 政勝幼少  
なりといふも

大権現より父の遺徳をいふ

右徳院殿よりつとへてつとへて 法弓頼  
とつとへて力同心とありて

元和元年六月十日冒して死す  
法名淨高



忠亮

宗之郎 奥州岩城より  
政勝郎 子と云は安藤  
孫四郎 子政勝の姪なり孫四郎父  
安藤九太郎 尉定政を奉別作侍小  
う内也

大権現よりしたまはつる濱村より  
氏田信玄と涉合戦乃尉定政馬番

長右衛門尉定忠小房 天正十八年  
五月二十日小房別出藤原なるを  
討死す孫四郎を甘國父定政小房  
馬番たる定忠をいさむらひもいさむらひあり 家の  
政友なり  
忠亮を

台徳院殿

將軍家よりつきたくす  
西乃丸よりなむく楠村孫九郎木造



二部左衛門尉藤木久右衛門尉重隆  
おふふふふ忠亮のつふありく  
後等とりつじつて病とあり  
死と歳廿四

久盛

内通助 生國氏

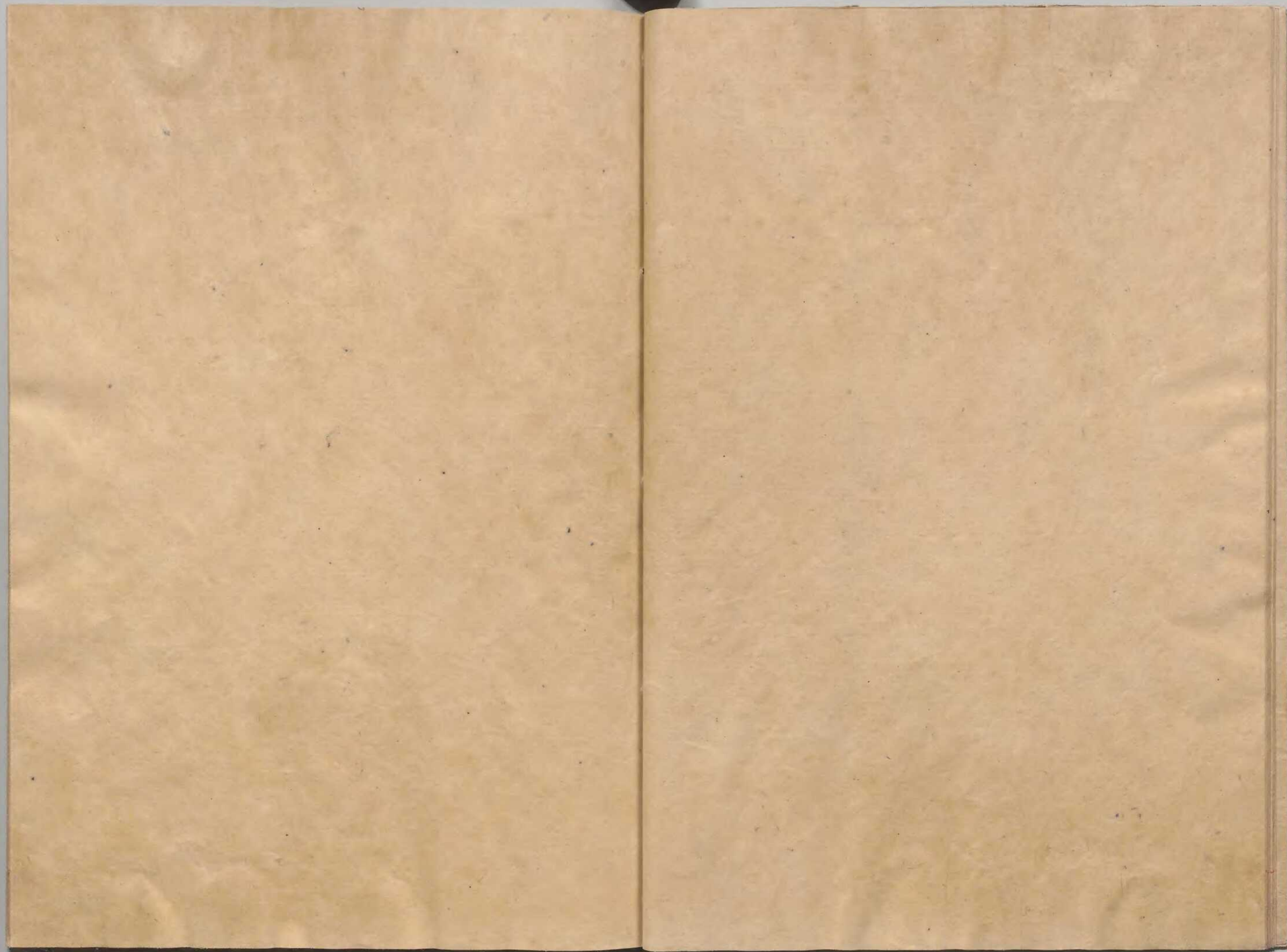
將軍家よりつたきつり領知の子  
曰石解とすはるる

忠政

宗之部 成則 宗之部

家紋 丸内二葉荷







● 勝進しんしん

久保くぼ

彦若未尉 生國尾しんこくお  
織田信長おだのぶなが 了しり

勝正しんせい

平江赤松 生國尾しんこくお



織田信雄おだのぶひこノ

海井修理亮尾張ノ國玉田ノ城守

トキ豊后秀吉とよごうひでよしノ

御事ごじニテ秀吉ひでよし御討ごうちノ

入いりノ時高名たかなト云いハ

東照大権現大久保新十郎とうしょうだいこんげんおおくほしんじゅうト使つかヒ

一ノ書いっしょヲ今小いまこシ

ノ事こと乃すなはチ秀吉ひでよし信雄のぶひこト下野國しもつけのくに

烏山くろやまノ配流へいりゅうト

ノ配下へいげノ

ノ事こと乃すなはチ

是こゝノ勝正かつまさト

ト云いハ

文祿元年ぶんりくげんねんト

大権現だいこんげんノ御湯ごゆト

台地たいちノ殿のとのト



但攻とれぬ

慶長五年同原陣より徳吉と

同十九年大坂清陣乃と

台徳信殿よりと

天和之年大坂再陣乃と

うめたまより伏見乃番と

同四年七十一歳より飛鳥 筑前日道

勝房

平右衛門尉 出國回前

台徳信殿よりと

昭昭と

慶長十九年大坂清陣乃時侍

翌年再陣乃と

伏見乃番と

將軍家よりと

と

と



寛永七年しちねん 号十八じゅうはち 歳とし 死し  
法名日清にっしやう

勝重かつしげ

本もと 右みぎ 兵へい 尉ゐ 生なま 五ご 氏し 茂も 隆たか

号なな 長なが 十じゅう 七しち 年ねん 一いち 月げつ 乙おつ 未み

台たい 德とく 信しん 殿でん 一いち 月げつ 一いち 日にち 丁てい 未み

日にち 十じゅう 九く 年ねん 大だい 坂さか 涉せつ 陣じん 一いち 休きゅう 行ぎやう 也なり

之これ 和わ 之これ 子こ 大だい 坂さか 涉せつ 陣じん 一いち 休きゅう 行ぎやう 也なり

乃すなは 番ばん 一いち 月げつ 一いち 日にち 丁てい 未み  
寛かん 永えい 十じゅう 八はち 年ねん 一いち 月げつ 一いち 日にち 丁てい 未み  
番ばん 乃すなは 一いち 月げつ 一いち 日にち 丁てい 未み

勝清かつしやう

市いち 之これ 兵へい 尉ゐ 生なま 五ご 氏し 茂も 隆たか

寛かん 永えい 九く 年ねん 一いち 月げつ 一いち 日にち 丁てい 未み

将しやう 軍ぐん 一いち 月げつ 一いち 日にち 丁てい 未み

同どう 年ねん 大だい 坂さか 涉せつ 陣じん 一いち 休きゅう 行ぎやう 也なり



勝氏

其即一系

勝隆

傳分

勝成

劫次郎

生國同前

大杉親

台酒信殿下つて人存るまゝ

勝重

其即六世

生國同前

受長十八年付り

台徳院殿小所へ存るまゝ

勝時

傳助 生國同前

寛永十二年付り



將軍家よりつゝしつゝしつゝ

勝時

勅次郎 生國寺

寛永八年

將軍家より祈禱したてし

同十六日

勝次

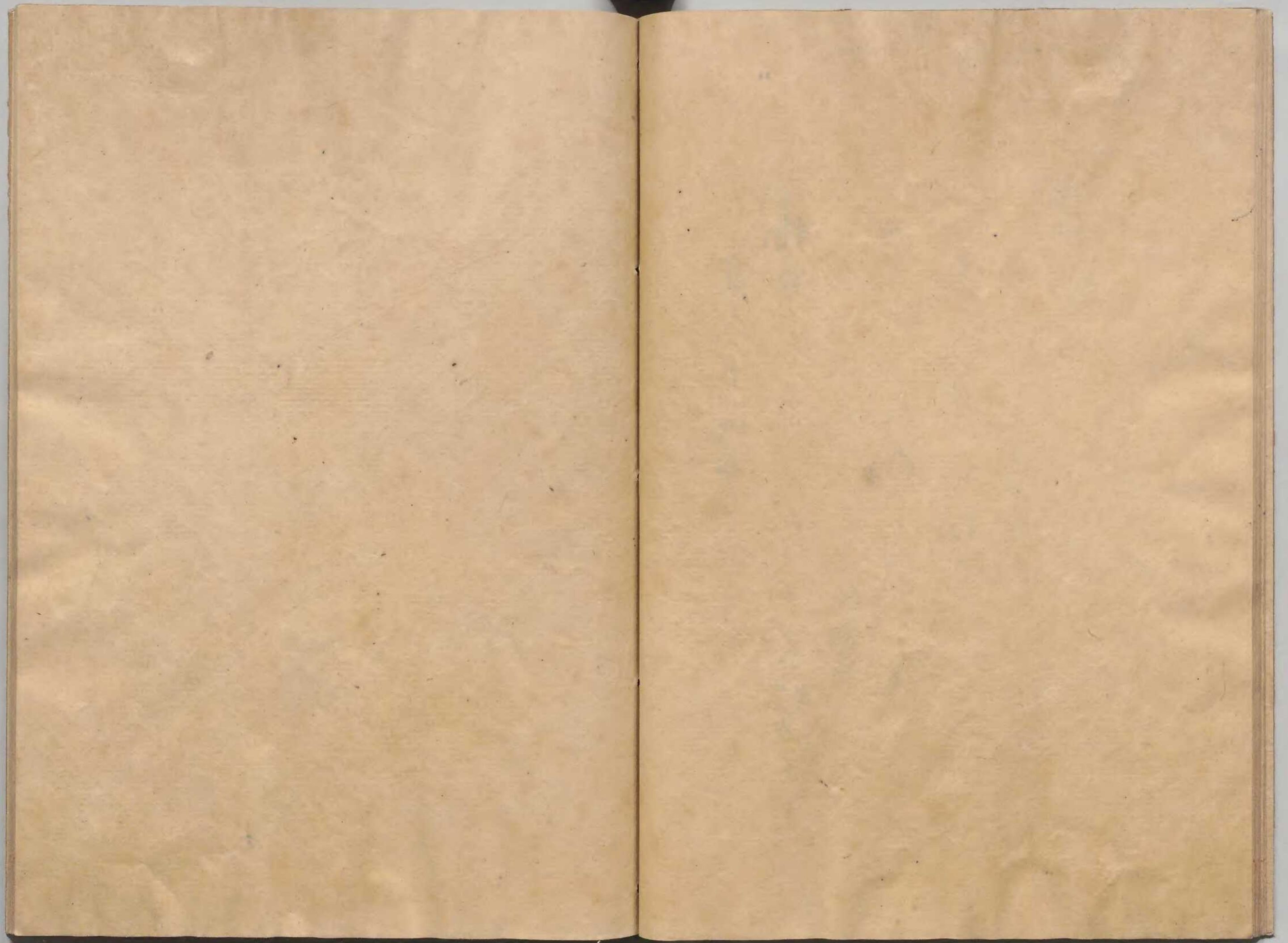
傳節 生國寺

寛永十二年

將軍家より祈禱したてし

家此致 乃内様







●  
利次

久保

新友為尉 但馬北國下任  
累世山名家

利正

新之助



夫を河州北住人援並伴賀も三安が

子あり援並、源氏あり

三安果代河州昌山氏一は之

援並十七ヶ所より取之

昌山三好く合我小治りてき三好

大勝利と云く河州より切取乃

利正伴河州小治りてき三好のり

山名氏小つふまに利次利正とや

なりしありと利正が母を利次娘

ありしゆなり是より援並と改死

久保と共とて及信人となりて

伯河小治りて南條伯耆守り

つて六十一歳ありて法祥一舟

月抄と号あり

之和六年七月宵日氏河州小

とて九十二歳ありて病死



三友

新之節 枿川地回りし時分  
南條伯耆守よりついで十八歳乃ち手  
浪人と相違伯耆守のいさむるふら  
新坂しと貞明相重朝の事と其  
乃ら同業よりついで南條英清守り  
ついで  
天正十二年 枿川を渡りし時分

めいこ

東照大権理より存錫し河切米を

たま

同十九年 台敷をうけなす

台徳院殿よりついでついでついで

台田村此より不承の地を

慶長七年占所 本郡より

此の地をうけし

寛永元年西郷此津東平と



二三開發乃新田を領地乃高小  
少少一しす  
同六年正月十日七十二歳  
死す

三之

台徳院殿  
將軍家より賜  
之和元年二月廿八日十四歳  
死す

台徳院殿

將軍家より賜

同六年

台徳院殿より賜

乃やをわひつと多沙切米と名賜

寛永六年夏はくは沙切米を

あ〜〜少くは夏をた

同九年

將軍家より賜



三信

三信

五兵衛尉 生國同家

寛永十六年十七歳なり時より

將軍家より御給し之を以て

同十六年より清右衛門此後を以

て之を以て清切米を有り

家乃段者なり



中坊なかのぼり

● 秀友ひょうとも

美作守みまさかのりょう

生國大和なまかつ

秀定ひょうてい

伯耆守はくけのりょう

生國河内なまかつ



盛祐

横波守

生國回前

秀祐

飛騨守

童名友勝

生國回前

永祿五年 後又位下小叙

飛騨守

任

交長七

東照大権現

一

和州吉野郡小倉

まげ

同十四年伏見

五十九歳 法名道尊

秀政

左近大夫 生國回前

大権現乃御命



秀祐が家督を継南郡に在り  
とつし

寛永七年後小叙  
飛騨守に任じ

同十二年南郡に在り卒す  
六十四歳

時祐

長谷馬針 生國河内

実を起昇寺孫七郎弘盛の子あり

母中坊秀祐の娘なり弘盛の父共郡南

豊弘小名孫七郎入道後秀と号す

豊后秀吉の三子豊弘は起昇寺

守前守後弘弟て豊安と号す

和別り起昇寺に郷に在り

天正十八年弘盛死す時祐一歳小

外祐父秀祐が在り春

育せり



慶長十七年駿府より上りて時  
大権現此台命を仰ぐりて江戸小  
いしりく

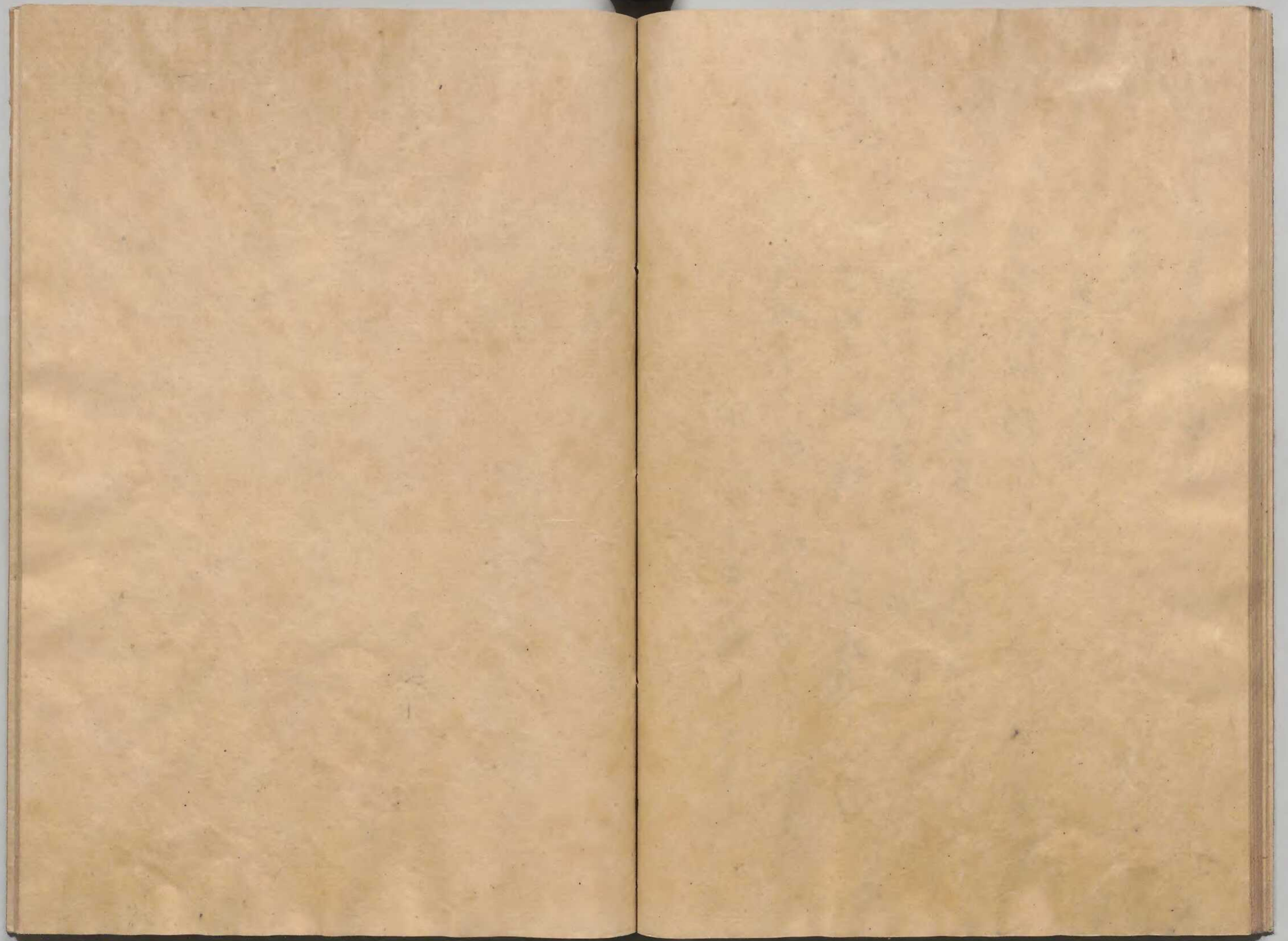
台徳院殿より上りてそのまじりし  
書院番より上りて

同十九年大坂法陣より上りて奉  
元和元年大坂再陣より上りて大坂  
乃共利別郡山此邊より上りて  
こ乃ゆりて高力左邊より上りて

い 命志とて書と結とありて  
此時より秀政時祐より上りて  
又大坂門尉 信より上りて高力  
男格より上りて  
寛永十五年父秀政死より上りて  
將軍家乃釣命をうけし海より上りて  
秀政が家督より上りて

家紋 五梅







中澤

● 来

主税助 生國甲斐

東照大権理

慶長十八年八月十日

あしき



台政

皇極助 生國同前

大権理 一 一 一 一 一 一 一 一

皇長十九年之相之序大坂御殿

乃御陣小侍奉と侍とむしと侍

台徳院殿

將軍家 一 一 一 一 一 一 一 一

在り されぬ

台清

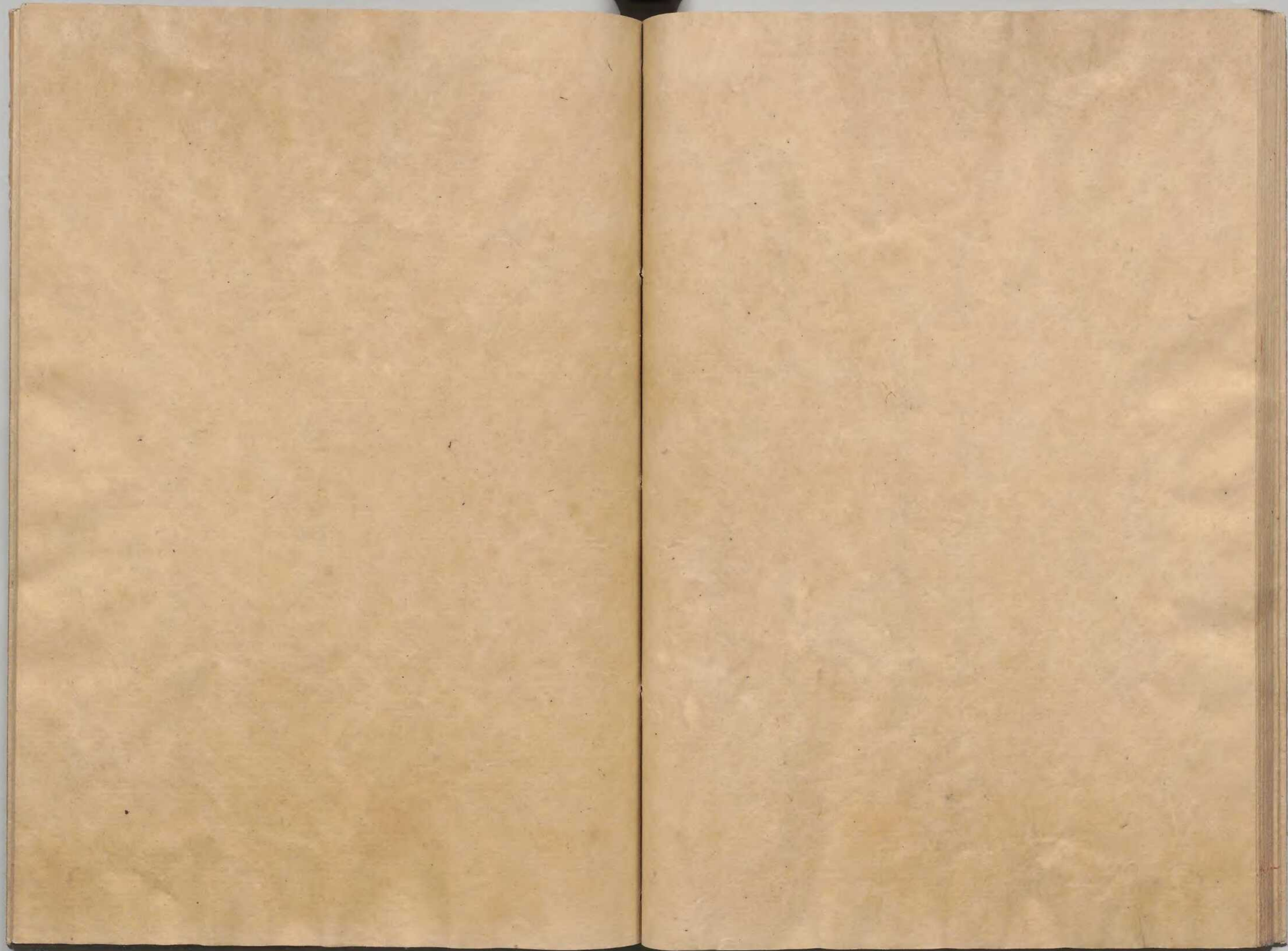
本六郎

寛永十二年七月

將軍家 一 一 一 一 一 一 一 一

家紋 七本骨丸扇







中澤

● 久吉

高島左衛門尉 信州岩村田  
 岩村田大炊助 三之丞 及良田信玄  
 杉の 膳料 一丁 膳料 没  
 後小條氏 忠不 房正  
 東照大権現 甲別 新府 一 河内 進敷の







大権現乃濟掌しん一しぬ  
之和六年四月小死こしと歳七十又  
法名道業だうごう

久次ひさつぐ

右左衛門尉 生國信濃  
芦田右衛門右左衛門尉  
長又長又六年同原陣なごら此時このとき  
大権現おほごん一し法名ほふな

寛永七年甲子あつし小死こしと歳五十九  
法名宗玄むねげん

正台ただう

右左衛門尉 生國占野  
台徳院殿たいとくゑん一し  
慶長十九年乙未えい乙未えい大坂おさか後ご  
法陣ほふじん一し法名ほふな  
寛永十七年九月小死こしと歳五十八



は名久三

台立

槍之師 中岡武彦

將軍家よりつとめしるる

家乃波板の系



中西

● 元重

書守 生國大和  
為井 以受

元如

伊豫守

生國大和



尚井 昭彦 又小つゝ 昭慶が敬又梅也  
ゆゑに尚井 伊賀守 雄彦 又

慶長十四年

東照大権現の教命小まら

台徳院殿 一つゝ 一つゝ 一つゝ

同十八日 台徳院乃 玉河内郡 下徳の

玉甲子 小つゝ 一つゝ 一つゝ 一つゝ 一つゝ

一つゝ 一つゝ

同十九年 大坂陣のとき 安藤

對馬守 一 一 一 長男 之 名 と 一

一 一 一

元和八年 三月七日 六十六歳 卒

卒 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

之 名

主 正 生 國 田 家

父 伊 豫 守 と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

台 徳 院 殿 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



元朝

寛永十九年之和之手大坂ありて  
陣より侍奉とつては時清授  
を有候と  
元和之手父、領地とるる家督  
とつ  
寛永九年十月十七日十九歳  
ありて死す 法名淨宣

主馬 生國因前

寛永二年

將軍家より

日九子父の領地とたすけり

元政

外記 生國氏

寛永六年

將軍家よりありて



同十年沖小姓組の番々つじ

家紋澤深又梅



中西

●  
亥清

亥助

生國

信濃

天正十年

東照大権現甲州津入國乃時亥清茶

内者<sup>あり</sup>礼多<sup>あり</sup>此<sup>あり</sup>少<sup>あり</sup>不<sup>あり</sup>交<sup>あり</sup>長六年大<sup>あり</sup>保

石見守<sup>あり</sup>奏<sup>あり</sup>若<sup>あり</sup>小<sup>あり</sup>少<sup>あり</sup>何<sup>あり</sup>も<sup>あり</sup>出<sup>あり</sup>れ



信を明しし者 信州下伊奈河代  
友と信守し

慶長十一年二月廿五日八十七歳  
去く死す 法名了善

三清

右部左衛門尉 生國因前

寛永十四年 駿河小をい

大権理り 有徳と

同十二年 父の遺志を継ぐ 信州下  
伊奈河代友とつとむる

寛永十一年八月廿二日七十一歳  
去く死す 法名入雲

清次

右部左衛門尉 生國因前

寛永十一年八月

將軍家とありし者 信州下伊奈



乃沛代友々つじ

家の紋澤深



友則

倉林

利部りぶ 生國なまくに  
 水條みずじょう 貞興さだかみ  
 河内かみの 村野むらの  
 法名ほふな 善慶ぜんけい  
 つくし 武則ぶに 相山さうざん  
 小



則房

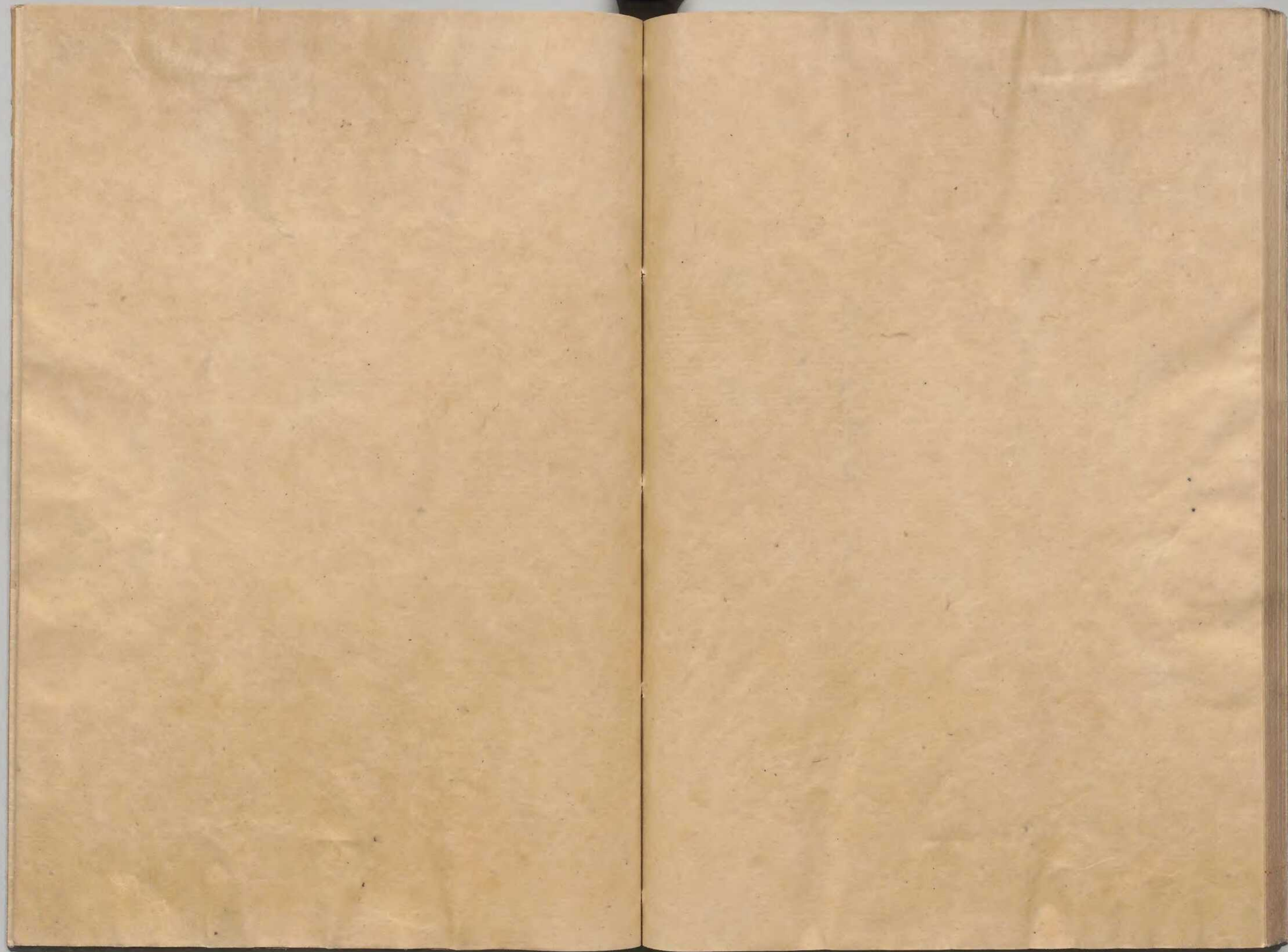
立高右衛門尉 生國武藏 佐々木  
東照右権現

正房

立高右衛門尉 生國  
名徳院殿  
將軍家

家乃紋耗目







熊澤

台定

生國下臨

子葉今  
了  
吾後太田道灌

信濃守

明應九年六月二十五日

死  
法名道安



台重

和泉 生國 武苑

右回 修徳寺

享文十五年四月八日 歳少

法名 道平

台勝

丹後 生國 同前

忠務

右所 左邊 尉 生國 同前

山際 十郎 少 乃 乃 乃 中村 孫 左 尉

乃 乃 乃 乃



寛永八年

台徳侯殿の家とくとけしとく後とくり房とく別とく

務とく山とく乃とく清とく代とく友とくとつとくとむとく

同十八年とく

將軍家とくよりとくつとくくとくくとくくとくくとく

家紋九曜とく



